

# バリノス、不妊リスク判定

# 子宮内細菌検査を海外展開

女性の不妊治療に取り組みバリノス(東京・江東)は、子宮内の環境評価事業について年内にも海外展開を始め、子宮内の細菌などの微生物組成を分析し、不妊リスクを調べる。新政権は不妊治療の保険適用に前向きで、今後こうしたサービスが一気に広がる可能性がある。バリノスは独自のゲノム解析技術を武器に、不妊・少子化の社会課題解決につなげる構えだ。

占め、悪玉菌の繁殖を抑える役割をしている。この組成が乱れると不妊の原因となる子宮内膜炎や卵管炎、骨髄膜炎が起きる可能性が高まるという。

子宮内フローラは月経や加齢のほか喫煙などでも乱れる。バリノスは子宮内フローラのバランスを整えるサプリメントも開発している。母乳や涙に含まれる「ラクトフェリン」というたんぱく質が主成分で、善玉菌であるラクトバチルス類の増殖を助ける働きがあるという。検査とサブリの両面で子宮環境の改善を後押しする。

の浸透に貢献したいと語る。バリノスはもう一つの事業の柱として、受精卵の遺伝性疾患のリスクを調べる着床前ゲノム検査も受託している。体外受精させた受精卵は通常、複数個の中から状態の良いものを目視で選んで体内に戻す。バリノスは体内に戻す前の受精卵から10細胞ほどを採取し、染色体異常がないか検査するため、客観的な評価ができるようになる。

バリノスは2017年に創業したスタートアップ。海外展開を始める「子宮内フローラ検査」は、子宮内膜液のゲノム情報から細菌組成を調べる手法で、同社が世界で初めて医療に応用した。まず3カ国程度から始め、展開地域を広げていく考えだ。

検査は提携先の医療機関へ検査キットを提供し、返送された患者の試料を分析してレポートを渡す流れだ。サービ

独自技術への注目度は高く、優れた起業家を表彰する中小企業基盤整備機構の「ジャパンベンチャーアワード2020」では経済産業大臣賞に選出された。9月には投資ファンドのSMBVCベンチャーキャピタル(東京・中央)とみやこキャピタル(京都市)を引受先とする第三者割当増資により、計3億円を調達した。不妊治療の保険適用に向けては政府も動き出しており、バリノスは国内外で存在感を示したい考えだ。

子宮は数年前まで無菌と考えられてきたが、解析技術の進展により子宮内に存在する細菌類のゲノムを検知できるようになった。子宮内フローラは通常「ラクトバチルス類」と呼ばれる善玉菌が大部分を

占めるという課題がある。不妊の検査や治療

(大崩貴之)



事業の成長に伴い本社と研究室を品川からお台場に増床移転した

日本の体外受精出生児は増加傾向

